

協会展示室の魚類標本

当協会の展示室には、東京内湾の調査で採捕されたり、漁業者の方々から提供されたりした魚類、貝類などの標本が多数保管・展示されています（図1）。今回、魚類について整理し、標本リストを作成しましたので紹介します。

保管されている魚類標本は合計104種でした。東京湾に生息する魚類は660種ほどと考えられています。湾奥に限ればほぼすべての魚類がそろっているかと思えます。リストをみると、ズズキ、ボラ、クロダイ、コノシロ、マハゼなど、内湾を代表する種が多く並んでいます。中には、全長30cmを越えるような立派なおキトビ、マルソウダといった外洋性の魚類もあります（図2）。何らかの理由で湾口から湾奥まで迷い込んできたのでしょう（詳細はトピックNo.2）。また、チワラスボという珍魚の標本も存在します（図3）。河口や内湾の柔らかい底質中に穴を掘ってくらす魚で、環境省のレッドリストには絶滅危惧IB類としてあげられています。この個体は荒川の葛西橋上流で採捕されたもので、東京湾では初記録かと思われる貴重な標本です（詳細はトピックNo.21）。近年リストに加わった魚を見ると、カイワリ、カタボシイワシ、セトミノカサゴといった南方系の魚種が目立ち、温暖化の影響が感じられ、長期的な東京内湾の環境の変化を教えてくれる重要な記録でもあります。

現在、貝類についても標本を整理していますので、次回は貝類について紹介したいと思います。



図1 展示室の標本類



図2 マルソウダ等の標本



図3 チワラスボの標本